

第8次三重県医療計画（小児救急を含む小児医療対策）の方向性について

第8次三重県医療計画（小児救急を含む小児医療対策）の 方向性について

・圏域の設定

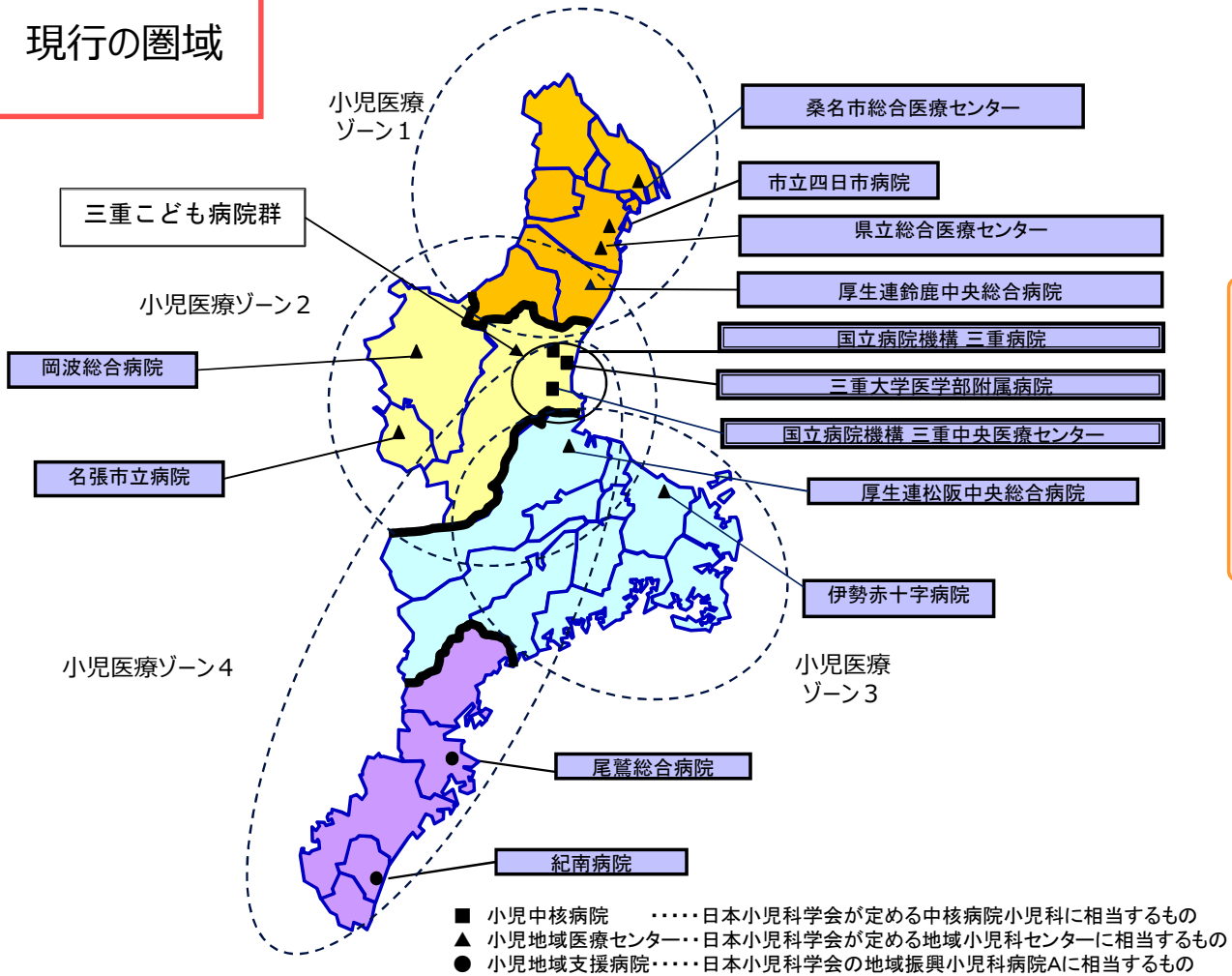
・めざす姿

・ロジックモデルの活用

・目標設定

【圏域の設定】 現行の圏域

現行の圏域



※鈴鹿中央総合病院：現行計画策定時は小児地域医療センターだったが、現在は小児地域支援病院になっている。

- 小児医療体制の構築にあたっては、小児救急において常時診療できる体制を整備するとともに、圏域ごとに少なくとも1か所の小児専門医療を取り扱う病院を確保するため、左の図のように4つのエリアを圏域としている。

第8次三重県医療計画（小児救急を含む小児医療対策） の方向性について

- ・圏域の設定

- ・めざす姿

- ・ロジックモデルの活用

- ・目標設定

【めざす姿】

現行計画のめざす姿

- 医療機関の連携等により、限りある医療資源を有効に活用し、適切な小児医療が提供されている。
- 普段からかかりつけ医を持ち、家庭でできる応急手当や病気に関する正しい知識を得られる環境が整っている。
- 県民が安心して子どもを育てることができるよう、保健・医療・福祉・教育分野が連携し、総合的かつ継続的な支援体制が進められている。



事務局案

- **めざす姿**については、第7次医療計画の取組状況、小児医療の現状を踏まえても全ての課題が解決したとは言えず、また、目標値は達成しているものの、これを継続し、さらに定着化を目指すべき重要な取組もあるため、**現行計画のめざす姿の維持を基本**としてはどうか。
- 県内の小児医療の現状と、資料2で示した見直しポイントを踏まえ、「**医療的ケア児及びその家族への支援体制の構築**」という方向性を、めざす姿に加えてはどうか。

第8次三重県医療計画（小児救急を含む小児医療対策） の方向性について

- ・圏域の設定
 - ・めざす姿
 - ・ロジックモデルの活用
-

- ・目標設定

【ロジックモデルの活用】 ロジックモデルとは

ロジックモデルとは

- 施策が目標とする成果を達成するに至るまでの論理的な関係を体系的に図式化したもの。
- 国の改正後指針において、施策の検討や計画の評価の際、また各々の施策と解決すべき課題との連関を示す際に、各都道府県においてロジックモデル等のツールの活用を検討することとされた。

イメージ図



【ロジックモデルの活用】 導入効果

ロジックモデル導入による効果

- 各計画の段階（現状把握、策定、評価、見直し等）に活用することで、PDCAサイクルの質の担保が期待でき、数値目標と施策の関連性を明確化できる。
- ロジックモデルの考え方を計画本文に落とし込むことで、論理的な計画の策定に繋がる。
- 一方、各疾病・事業等において、標準的なアウトカムの設定が難しい場合や、経年的な指標データの取得が困難な場合もある。

現 状

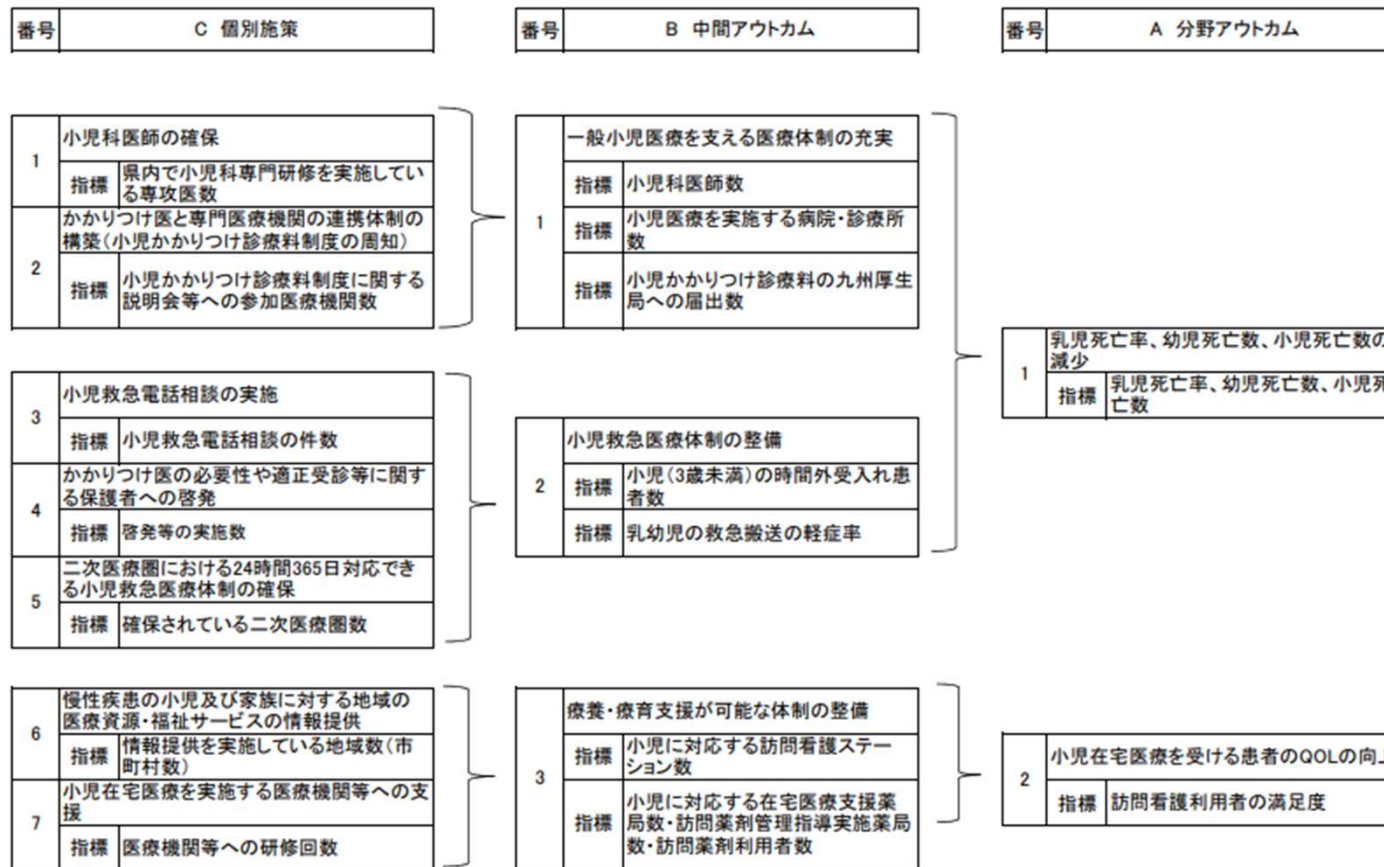
- 第7次三重県医療計画においては、ロジックモデルを導入しておらず、数値目標と施策の関連性が明確化されていない。

対応案

- 第8次医療計画においては、ロジックモデルを導入することとしてはどうか。
- 計画本文における「めざす姿」の在り方や、数値目標の関係性についても、ロジックモデルの考え方を基に議論してはどうか。

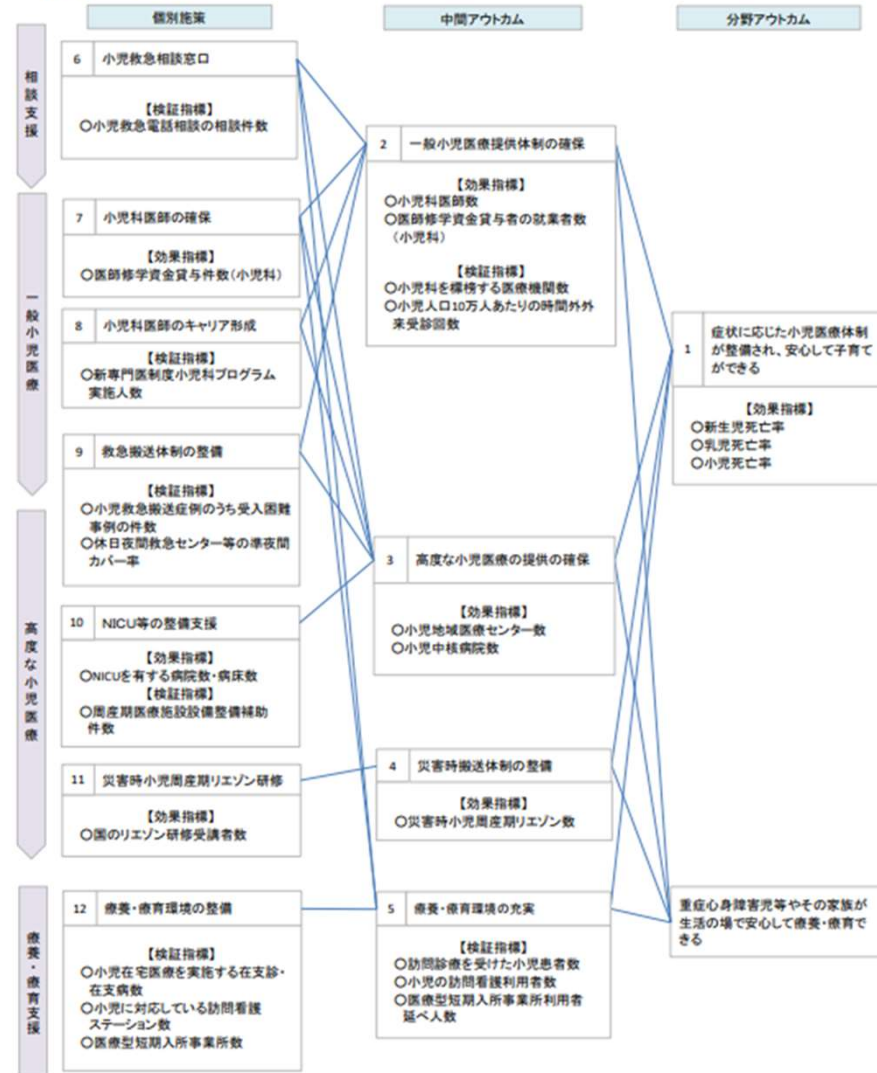
小児

小児医療分野 施策・指標体系図



小児

○ 施策体系表



小児の医療体制構築に係る現状把握のための指標例

※赤字は追記/修正箇所

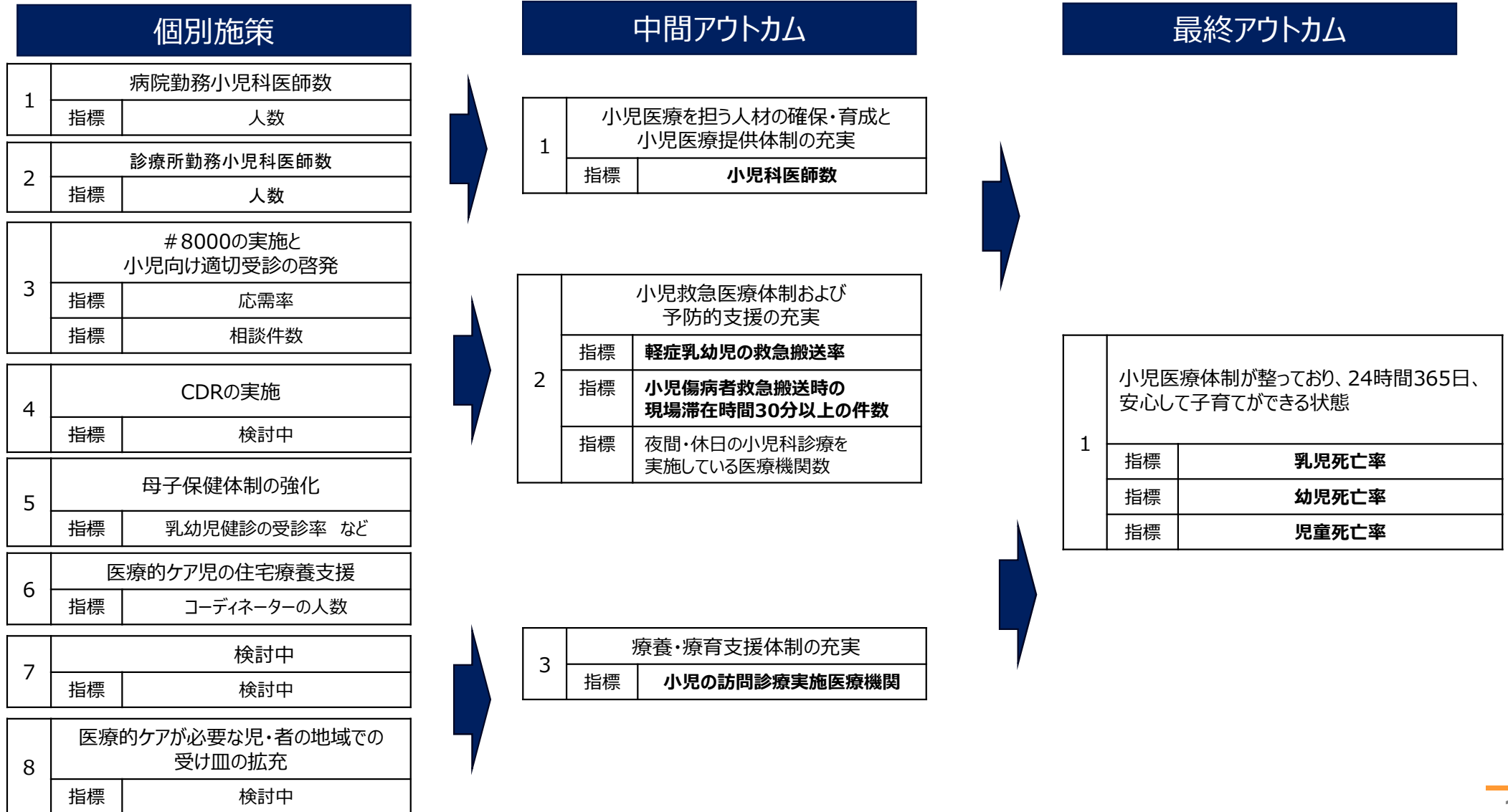
	地域・相談支援等	一般小児医療	小児地域支援病院	小児地域医療センター	小児中核病院
ストラクチャー	● 子ども医療電話相談の回線数・相談件数・応答率	小児科を標榜する病院・診療所数	小児地域支援病院数	小児地域医療センター数	小児中核病院数
	小児の訪問診療を実施している診療所・病院数	小児歯科を標榜する歯科診療所数			PICUを有する病院数・PICU病床数
	小児の訪問看護をしている訪問看護ステーション数			在宅小児の緊急入院に対応している医療機関数	
			在宅医療を担う医療機関と入院医療機関が共同して在宅での療養に必要な説明及び指導を行っている医療機関数		
			小児科医師数（医療機関種別）		
		夜間・休日の小児科診療を実施している医療機関数			
プロセス	小児在宅人工呼吸器患者数	小児のかかりつけ医受診率			
	小児の訪問診療を受けた患者数			救急入院患者数	
	小児の訪問看護利用者数		緊急気管挿管を要した患者数		
	退院支援を受けたNICU・GCU入院児数	●	小児救急搬送症例のうち受入困難事例の件数		
			特別児童扶養手当数、児童育成手当（障害手当）数、障害児福祉手当交付数、身体障害者手帳交付数（18歳未満）		
アウトカム	● 小児人口あたり時間外外来受診回数				
	●	乳児死亡率			
	●	幼児、小児死亡数・死亡原因・発生場所・死亡場所			

ストラクチャー	● 災害時小児周産期リエゾン任命者数
---------	--------------------

*災害医療の提供体制に係る指針及び指標例との整合性に留意すること。

(●は重点指標)

【目標設定】 第8次医療計画（小児医療対策）におけるロジックモデルイメージ



第8次三重県医療計画（小児救急を含む小児医療対策） の方向性について

- ・圏域の設定
 - ・めざす姿
 - ・ロジックモデルの活用
 - ・目標設定
-

事務局案

- ロジックモデルにおける**最終アウトカム、中間アウトカムの指標を基本に数値目標**として定め、それ以外の指標については計画の進捗を把握するための指標とすることを検討してはどうか。

【目標設定】 第8次三重県医療計画（小児医療対策）の目標

疾病・事業等	項目	策定時	中間評価時 (策定3年後)	現状値 (策定5年後)	目標値
小児救急を含む小児医療	幼児死亡率（幼児人口1千人あたり）	0.11【H28】	0.15【R元】	0.04【R3】	0.08未満
	軽症乳幼児の救急搬送率 （乳幼児の急病による救急搬送のうち軽症患者の割合）	75.4%【H28】	75.7%【R元】	72.9%【R3】	70.0%未満
	小児傷病者救急搬送時の現場滞在30分以上の件数 （ ）内は重症以上で搬送された件数	175（0件）【H27】	97件（0件）【R元】	102件（0件）【R3】	90件以下（0件）
	小児の訪問診療実施医療機関数	9施設【H27】	9施設【R2】	24施設【R4】	20施設
	小児科医師数（人口10万人あたり）（ ）内は実数	11.5人（208人） 【H28】	12.2人（219人） 【H30】	13.1人（232人） 【R2】	13.3人以上 （241人以上）

いずれも重要な指標であり、数値目標でもあるため、第8次医療計画においても継続して取り組みたいと考える。
 なお、着色部分は、新たに設定をしてはどうかと考えている指標。

疾病・事業等	項目	策定時	中間評価時 (策定3年後)	現状値 (策定5年後)	目標値
小児救急を含む小児医療	乳児死亡率（出生千対）	1.6【R3】			検討中
	幼児死亡率（幼児人口1千人あたり）	0.04【R3】			0.04以下
	児童死亡率（児童人口1千人あたり）	0.06【R3】			検討中
	軽症乳幼児の救急搬送率 （乳幼児の急病による救急搬送のうち軽症患者の割合）	72.9%【R3】			70.0%未満
	小児傷病者救急搬送時の現場滞在時間30分以上の件数 （ ）内は重症以上で搬送された件数	102件（0件）【R3】			90件以下（0件）
	小児の訪問診療実施医療機関数	24施設【R4】			検討中
	小児科医師数（人口10万人あたり）（ ）内は実数	13.1人（232人）【R2】			14.3人※

※令和4年医師・歯科医師・薬剤師統計の結果により再考の可能性あり

第8次医療計画における数値目標の項目等について（事務局案）

○現行（第7次医療計画）から継続して取り組みたい項目

・幼児死亡率（幼児人口1千人あたり）

→ 第7次医療計画策定時に設定した目標値を達成しているが、より低い値をめざして引き続き取り組むべき内容であることから、**直近の0.04以下を目標値**として設定したい。

・軽症乳幼児の救急搬送率（乳幼児の急病による救急搬送のうち軽症患者の割合）

→ 第7次医療計画策定時より改善はしているものの目標値を達成できていないため、引き続き**70.0%未満を目標**として設定したい。

・小児傷病者救急搬送時の現場滞在時間30分以上の件数

→ 第7次医療計画策定時より改善はしているものの目標値を達成できていないため、引き続き**90件以下を目標**として設定したい。

・小児の訪問診療実施医療機関数

→ 目標数値については検討中

・小児科医師数（人口10万人あたり）

→ 令和2年の**全国平均14.3人**を目標設定してはどうか。 ※令和4年医師・歯科医師・薬剤師統計の結果により再考の可能性あり

○新たに追加を検討したい項目

・乳児死亡率、児童死亡率

→ 県民が安心して子どもを育てることができるように、総合的かつ継続的な支援体制を進めていくためには、周産期から小児期までを一体的に考える必要があることから、医療計画で数値目標としている周産期死亡率（周産期医療対策）と幼児死亡率に併せて乳児死亡率、児童死亡率を新たに数値目標としてどうか。

① **第8次医療計画策定において設定する「目指すべき姿」、取組が必要な課題、重点的に取り組むべき項目等について**

- 第7次三重県医療計画の取組状況、三重県の小児医療の現状、厚生労働省から示されている第8次医療計画の見直しのポイントを踏まえ、設定する「目指すべき姿」、新たに取り組むべき課題、重点的に進めていくべき事項等についてご意見いただきたい。

② **ロジックモデルを活用した目標管理の取組について**

- ロジックモデルを用いた目標管理を導入してはどうか。
- ロジックモデルにおける最終アウトカム、中間アウトカム、個別施策においてイメージ案の他に考えられる指標等はあるか。

③ **目標設定について**

- 本計画の数値目標は、ロジックモデルに基づいた最終アウトカム、中間アウトカムの指標（数値目標）を基本に設定することでどうか。
- 数値目標とする項目及び数値目標の目標値についてご意見をいただきたい。